



2025年4月6日

千載一遇のチャンス！

いま最もお伝えしたいのは、「十数年ぶりの絶好の買いチャンスが来た！」ということです。ここで前向きに動けたならば、近未来には大きなリターンを手にすることができるかもしれません。この好機を逃す手はなく、未来に向けた一歩を踏み出しましょう！いま、長期投資を実践する千載一遇のチャンスです。

なぜ世界の株価は下がっているのか……？そしてそれはいつまで続くのか……？

トランプ関税によって世界の株式市場が大きく値下がりましたが、これは下落相場の序章に過ぎません。ここから更に20～30%の下落に見舞われたとしても私たちは驚くことはないでしょう。それほどまでに関税の影響は大きいのでしょうか？実際、関税が世界経済に与える影響は小さくありませんが、それ以上に大きな問題を世界は抱えており、関税に対する米国の強硬姿勢がその問題に火をつけたように思います。つまり関税は単なるトリガーで、もともと世界には“無理”が積み上がっていたのです。

最大の“無理”は、世界は過剰な債務によって賄われてきたということ。そしてその債務があふれるほどのマネーを生み出し、株式のみならず不動産や金(ゴールド)、暗号資産などあちこちに流れ込んでそれらの資産価値を引き上げたことです。例えば、株式で言えば「企業の利益水準が高まったことで極度の割高感はない」など、それらしい理屈が述べられてきました。その他の資産高騰も同様です。しかしながらその背景には、価格を支えるほどにマネーがあふれていたからに他なりません。現象を正当化する説明は後からいくらでもできるのです。

では、そうした過剰なマネーが縮小に向かったら？トランプ関税に対する懸念や危惧が世界を縮こませてしまったら？おそらく、関税による企業業績の悪化が株価下落をもたらした……と説明されるのでしょうか、だとすると株式市場から引き揚げられたマネーは金(ゴールド)他のリスクオフ資産と言われるところに向かうはずですが、しかしそうはならないでしょう。マネーの縮小がもたらすものは全資産全面安です。

投資はやめるべき？いや、これから絶好のチャンスが来るのだ。

仮に全資産が暴落したとして、私たちの生活はどう変化するのでしょうか？もちろん、なけなしの投資資金が値下がりすることで心理的不安は募るでしょう。しかしだからと言って、人類は食べたり飲んだりといった基本的な生活を止めることはありません。インフレによって生活への圧迫があろうとも、3食を2食にする、食後のデザートを我慢するというような節約はあるにせよ、生活自体はなくなりません。一時的に景気が大きく悪化しようとも、人類の生活が続く以上は経済が消えてなくなることはなく、「また豊かな暮らしをしたい」といった健全な欲望によっていずれ必ず景気は改善していきます。関税直撃の米国経済は、インフレのみならずDOGEなどによる失業問題、低所得者層への補助金カットや行き過ぎクレジット・ローン消費の減退など厳しい冬が来るかもしれませんが、世界と同様に人は未来を良くしていきたいという純粋な欲望と希望があり、必ず回復へ向かいます。

そうした未来を見定めたら、足元の株価下落はむしろ絶好の買いチャンスに映るはずですが、ただし買うべき対象は選ぶ必要がありそうです。何でもかんでもが全面的に上がるといった期待は持てません。ここは実際の私たちの生活に必要な企業、つまり社会がどうなっても消えてくならない企業を選び、いまこそリスクマネーを投下するのです。

昨今だと日本でもスタートアップ企業への投資が徐々に活発となり、新しいイノベーションを皆で支

える文化が根差しつつあります。生活に必要な企業しかり、新しい企業しかり、リスクマネーとはこういう時に出すための資金なのです。その果敢なリスクテイクが、未来のリターンを生み出すのですから。新NISAをきっかけに資産運用を始めた多くの人たちは、流行の米国株式を中心としたインデックスファンドへ積立投資をしていることでしょう。そしておそらくいま、米国株安と為替差損のダブルパンチで先行き不安となっていることと思います。このまま続けてもいいのか……？ ぜひ続けてください。しばらくは厳しい時間が過ぎるかと思いますが、ここが初めてとなる踏ん張りどころです。10年もしないうちに、続けてよかったと安堵する日が来ることと思います。

さわかみ投信が思うこと……共にこの正念場を乗り越え、長期投資の本領を発揮しよう！

災害が来たらどうするか？ そういった問いに対し、私たちは「来てからでは遅いので、来る前からしっかり準備しましょう」と答えてきました。被災時を乗り越えるための防災セットは安くなく、家族全員分を常備したら自宅のスペースを取られてしまうかもしれません。しかし備えあれば患いなし、いざという時に大いに役立つはずで

です。暴落が来たらどうするか？ まったく同じことです。備えあれば患いなし、いや、暴落に立ち向かうのだと、さわかみファンドでは現金を多めに保持し待っておりました。その分、株式市場の上昇局面では現金保有分だけ運用成績が劣後し、「コストの低いインデックスファンドに負けるなんて！」とご迷惑をおかけしてまいりました。「いつか長期投資の出番が来る、そして長期投資は未来を豊かにするのだ」と言っても、綺麗ごとだとか負け惜しみだと言われたこともあります。おかげさまで、さわかみ投信の顧客(ファンド仲間の皆さま)は私たちの理念をよくご理解いただいているため、長らく続いた苦しい時期も共に寄り添っていただきました。そして遂に、準備が報われる日が来たのです！

豪語しているように、私たちは次の景気で活躍するような企業の徹底調査が済んでおります。そして数多くの社員が全国各地に赴き、セミナーなどを通じて直接対話できる体制も整えました。この千載一遇のチャンスに対し準備万端、いまこそ長期投資家の真骨頂を見せる時と鼻息荒く待ち構えております。かつて、厳しい環境を乗り越えた先に、投資した企業から「あの時に支えになったのは、さわかみさんでした」との言葉をいただいたことも多数あります。私たちの長期投資が報われたと感じた瞬間です。いま、そしてこれからまさに厳しい環境に入っていくと思いますが、それでも企業は社会を担うため必死に努力を続けていくでしょう。そうした頑張っている企業を応援できるチャンスも暴落時なのです。業績相場にただ乗りするのではなく、相場の転換期を顧客、企業そして私たちで手を携えて乗り越える。そして未来に、育んだ価値を分かち合う……これが長期投資の醍醐味です。

ファンド仲間の皆さまへ。

ずっと申し上げてきた、長期投資家の出番が目前に迫っております。あふれたマネーの一部が一時的に株式市場に戻ったとしても、今後引き上げられるマネーの穴埋めはできず、下落相場は免れないと考えます。私たちはどのような相場動向となっても、お約束した長期投資家の責務を果たすのみです。ここから更に大きく値下がりましたら、厳選した企業群に対し果敢に長期投資を実行します。

ITバブルやリーマン・ショックなど過去の暴落後に証明された長期投資の威力、ずいぶんお待たせしましたが、久しぶりにお見せできそうです。この大チャンスをぜひご一緒しましょう！ 追加のご入金は大切にお預かりし、割安感が極まり次第、適宜投資に回してまいります。そしてその動向は全て共有していきます。10年後を楽しみに、荒波へと航海を進めましょう。

さわかみ投信株式会社
代表取締役社長 澤上 龍

さわかみファンドについて

- 経済の大きなうねりをとらえて先取り投資することを運用の基本とし、その時点で最も割安と考えられる投資対象に資産を集中配分します。
- 将来価値から考えて、市場価値が割安と考えられる銘柄に選別投資し、割安が解消するまで持続保有する「パイ・アンド・ホールド型」の長期投資を基本とします。
- 「割安であること」の判断の精度を維持・向上するために、経済全般および個別銘柄について徹底したリサーチ活動を継続します。

当ファンドは、運用の成果について目標とするベンチマークは設定しません。上記のスタイルを一貫し、これを変えることは致しません。当ファンドの運用にあたっては、短期的な成績向上を狙うような無理な投資はしませんが、必要と考えるリスクは敢然と取ります。また、長期的な運用成果を向上させるため、株主総会での議決権行使なども積極的に行ってまいります。

当ファンドの運用方針は長期運用を前提としているため、ファンド資産の激しい変動は運用効率を著しく阻害しますので、短期保有目的でのご購入はご遠慮ください。

お申込みメモ

リスク	さわかみファンドは、主に国内外の株式や債券など値動きのある有価証券等に投資します。そのため、組入れた有価証券等の価格、外国為替相場等の変動により、当ファンドの基準価額は影響を受けます。これらにより生じた利益および損失は、全て当ファンドの投資者（受益者）の皆さまに帰属することとなります。また、元本および利息の保証はなく、預金保険の対象ではありません。したがって、投資者（受益者）の皆さまの投資された元本は、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。その損失に耐えうる以上に当ファンドに対して投資することはご遠慮ください。投資信託は預貯金とは異なります。		
購入時手数料	ありません。	信託報酬	当ファンドの純資産総額に対して、1.10%（税込・年率）です。
信託財産留保額	ありません。		
その他費用・手数料	当ファンドに組入れる有価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料、売買委託手数料に対する消費税等相当額、先物取引・オプション取引等に要する費用、一部解約金の支払資金の手当を目的とした借入金の利息は、信託財産中から支弁します。※これらの費用については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。		
留意事項	投資に当たっては、必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」をよくご覧いただき、ご自身で判断してください。「投資信託説明書（交付目論見書）」のご請求は「ご縁の窓口」（TEL:03-6706-4789）までお申込みください。		

【ファンドの委託会社その他の関係法人の概要】

- 委託会社: さわかみ投信株式会社
- 受託会社: 野村信託銀行株式会社
- 販売会社: さわかみ投信株式会社



さわかみ投信 株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第328号 一般社団法人 投資信託協会 会員 / 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員
〒102-0082 東京都千代田区一番町29-2
TEL:03-6706-4789 FAX:03-5226-7981 <https://www.sawakami.co.jp/>